

たきこみごはん

全国福祉保育労働組合
東海地方本部 障害協議会NEWS

2007, 4, 16

Vol. 5

自立支援法が施行され2年目がスタートしました。

みなさん、どんな状況や思いのなかで2007年度をむかえたでしょうか。

どこで、だれと話しても厳しい現実ばかり聞かれます。

「やめていった職員の補充がされない。そんな中で利用者は増え現場はぐちゃぐちゃ。」

「募集をかけても給料が低いからか、応募がない」

「何年働いても給料があがらず、このままではいつまでつづけられるか・・・」

「家族の人とも利用料の催促などで関係がギクシャクしてきた」

そして、その帰結として「職場が殺伐としてきた」「組合の会議なんてとんでもない」と。

さて、この現実はどうむかっていきますか。

先日、全国の障害職場の組合員の会議がありました。ある県では入所・通所施設をあわせて69名の人が施設を退所したそうです。またある入所施設では、H23年には解散することを決めたということです。利用していた人たちはいったいどこにいくのでしょうか。

関西のある法人では、グループホーム用に20戸あるワンルームマンションを借り上げ、そこをひとりの職員でみているとのこと。そんな体制でなにができるのでしょうか。

新聞の報道では、財政の縮小のためにそれまで要介護1であった人が改正介護保険により、この1年で28万人少なくなったそうです。それによって26億円の経費の削減になったということです。今まで借りられていたベッドが「貸しはがし」にあい、多くの高齢者の生活がたいへんになっていると報じられていました。

こんな実態をせまる自立支援法に、介護保険法に怒りをもちつづけることです。

私たちが、立ち向うことで変わるということは、昨年の10月31日に15,000名の集会後、国が1200億円の緩和策をもちだしてきた事実をみてもあきらかです。新年度も、足元でおこっている現実をみつめつつ、しっかり前を見据えてとりくみをすすめていきましょう。

そして春闘期まっただ中です。

私たち障害分野では、いちはやくすずかけ分会がプラス1ヶ月の一時金支給を勝ち取りました。ゆたか民主労組でも、ゆたかユニオン・ローカルとの共同で要求書の提出・交渉がおこなわれました。賃上げやボーナス、労働時間、給食問題等で少しずつ前進がはかられてきています。また、みなと福祉会分会でも団体交渉が進行中です。

こんなたいへんな状況で要求なんて・・・というまどいも耳にしますが、私たちが安心して働きつけられる条件をつくっていくことは、若い職員たちやいま福祉を学んでいる学生たちにも希望をあたえることにつながります。そして、この国の障害者福祉を創っていくことにもつながります。がんばりましょう。

石川

そよ風分会 元田さんからの投稿です!

～尾崎豊が見ることのできなかった風景を～

高校生の頃、尾崎豊は僕のヒーローだった。「THE DAY～約束の日～」という、晩年の頃に行われたライブを収録したアルバムの中で放った彼の言葉に救われた。「人生はきっと自分のしたいことのためにあるんだと思う。だから時間があると思う人や、まだ何かできると思う人は、今の内にうんとたくさん心の財産を増やしておくといいと思う。」それまで周りの期待に応えることが全てだった少年には、とても衝撃的な言葉だった。しかし時が経つにつれ、いつしか尾崎豊を反面教師と思うようになっていた。もう数年前だが、そんな折に織田哲郎という音楽プロデューサーの人が尾崎豊について書いた文章と出会った。「未完の小説」というタイトルの短いエッセイだった。

『ジョンレノン「ジョンの魂」というアルバムで「僕はビートルズを信じない」と歌った。ボブ・ディランはフォークの旗手と呼ばれ、フォークミュージックのファン達の期待を一身に背負っていた頃、フォークフェスティバルでロックバンドを引き連れてエレキギターを掻き鳴らし、大ブーイングを浴びた。僕は、彼がいつか「尾崎豊であること」から降りた時に作るであろう音楽を本当に楽しみにしていた。そしてその時は必ず来ると勝手に確信していた。

～中略～ 僕にとって目指すべき、ポジティブな意味での「大人」の定義は二段階ある。一つ目は「人間は孤独なものだ」という事を前提として踏まえて生きていけるようになること。「人と人は解りあえるものだ」と思っているから解ってくれない事に腹を立てる。解ってくれることがどこか当然だと思っているから、理解者に対して感謝できない。～中略～ それでも外の世界と交渉を続ける内にやがて「人と人は解りあえない」「人間は孤独なものである」という結論に至るのではないか。だがそれはあきらめなどということじゃない。それが前提になってこそ初めて「人と解りあえる事」あるいは「人と分かち合える瞬間」がどれほど素晴らしく、貴重なことか認識できると思う。「解りあえない」「孤独な」人間同士の営みだからこそ愛おしい。そこに至ってやっと本当に自分も他人も「許せる」のだろう。これが二つ目だ。

～中略～

人が成長するために通過してゆくべき道程を、ショートカットせずに走り抜けた人間だけが見る事の出来る風景がその後に広がると僕は信じている。そして、あれほど血を流しながら走り続けた彼だけが見る事の出来る風景を、いつか素晴らしい作品に変えて僕らに届けてくれる日を本当に待っていた。彼の残した作品は今も素晴らしい輝きを放っている。だけどどうしても前編だけで終わってしまった小説のような気がしてしまうのだ。』

今、僕は Mr.Children の櫻井和寿という人に注目している。ap bank という環境問題に取り組む非営利組織を立ち上げ、一昨年に引き続き昨年も夏にフェスティバルを行った。昨年は僕も会場に行くことができた。年末に DVD を買って見ると、会場の人たちの顔や声がたくさん映っていた。素晴らしかった。どの顔も輝きながら、本当に楽しみながら、真剣に環境のことを考えていた。障害者問題という社会問題を多くの人に知ってもらおうという宿題をもっている者にとって、本当にこんなことが可能なのかと思えるほどだった。こんな時代に、音楽の、言葉の、そして人の素晴らしさを改めて感じさせてくれた。そこに至るまでにいったいどれほどの道程があったのだろう。

尾崎豊は筑紫哲也との対談の中でこんなことを言っている。「僕の願いの中には、一度でいいから全人類が微笑む瞬間というのを見てみたいというのがあって、そしたらその瞬間世界は変わるんじゃないかと、

そんな気がしているんです。」全人類とはいかないが・・・尾崎豊がああフェスを見たらどう思っただろうか。
尾崎豊、享年26歳。いつのまにか彼より年上になっていた。尾崎さん、これから僕はあなたが見る事の出来なかった風景を見に行きます。そして、その風景を次の人たちに繋いでいきます。

そよ風分会 元田和宏



**障害者自立支援法に立ち向かい
「元気」「共同」「仲間」を広げよう!!**

第13回 障害福祉職場に働く職員の全国交流集会 in 江の島

【日時】 **2007年6月9日(土)** 13:00~17:00
2007年6月10日(日) 9:30~12:30

【会場】 **神奈川県立かながわ女性センター** (神奈川県藤沢市江の島)

【参加費】 **3000円** (1日のみ参加 1500円)

【宿泊】 **東横イン藤沢駅北口** (藤沢駅北口4分/藤沢市藤沢)

【夕食交流会】 **磯料理「レストラン貝作」** (江の島入口すぐ)

6/9(土)

13:00 13:30

15:15

15:30

17:00

18:00

20:00

受付	全基 体調 会報 告	【記念講演】 岡崎裕司氏 (仏教大教授)	休憩 ・ 移動	1~4分科会	移動	夕食交流会 磯料理 「貝作」	ホテルへ 移動 (電車で 藤沢駅へ)
				フレッシュ セミナー			

6/10(日)

9:30

11:45

12:00 12:30

受付	1~4分科会	移動	全体会	お疲れ様でした。 ここからはそれぞれに 湘南・江の島の初夏を 満喫してください。
	フレッシュ セミナー			

一緒に交流しよう!
江の島で待ってるよ!



一編の詩をあなたに

せいめい
生命は

生命は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も
めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする

生命はすべて
その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

私は今日、
どこかの花のための
虻あぶだったかもしれない
そして明日は
誰かが
私という花のための
虻であるかもしれない

吉野 弘詩集
『素直な疑問符』より

<編集後記>

新聞を作り始めてパソコンに専用のメールアドレスを作りました。
原稿が届いているかな?と休憩時間にパソコンを開くのが楽しみになりました。それと同時に、待つこと、ただひたすら待つことも練習中です。
というわけで、みなさん、投稿お待ちしております。



みなさんの投稿を
お待ちしております。

ご意見、ご感想もぜひ
お寄せください!

E-mail takkomigohan06@yahoo.co.jp

または (052) 792-7258 稲垣まで
FAXお送りください。